

Bun voya!

越前市文化センターだより

Vol.8 2021.Spring

あなたに聞きたい!

文化センターの「つぶやき」ならぬ「ぼやき」で文化センターへの旅を...



篠田 洋さん

今回はたけふブレイクアンサンブル代表で、県内各地で吹奏楽の指導をされている篠田洋さんにお話を伺いました。

文化センター（以下文）：音楽に関わる最初のきっかけは何ですか？小さい時からピアノを習っていたとか...？

篠田洋（以下篠）：母親が教員をやっていたもので家の中にピアノはあったけどね。

文：音楽の先生ですか？

篠：音楽の先生ではなくて小学校の先生だからピアノがあったんです。でもピアノが家にあるってだけで、僕には遊び台っていうか、上に乗って遊んだり（笑）、弾くことはその頃一回もなかった。ただ、僕はヴァイオリンを習っていたんです。

なぜか両親がヴァイオリンを習ったら？と。僕も分らずその頃鯖江にいらした先生に小学校一年生からずっと習いに行っていたんです。でも、一緒に習っていたお医者さんの息子さんがめっちゃめっちゃまく弾いたのを聞いて「俺は絶対うまくならん」と。それでも親の勧めもあってずっと習ったの。そしたら先生が福井に引っ越してしまふことになって、辞めてしまったんです。

それで中学校になって何もすることなくて。そしたら同級生がブラスバンド（吹奏楽部）入ったら？と。

「ブラスバンドっていいぞー」運動会の時行進の時だけ出て演奏してその後は部室で弁当食べてればいいや（笑）と。それで中学二年生で顧問の先生に「先生、急なんですけどブラスバンド入りたいんです。」って。そしたら「お前初めてやからシンバルでも叩いとけ」と。シンバル

を「面白いなあ」と思いながらやっていたら、同級生が「これ吹いたら？」とユーフォニアムという楽器を与えてくれたの。で、それを吹いたら面白かったらどうね、音も鳴ってくるし。そのうちに進学をどうしようかということになって、先生に「まずは私立受けとけ」と言われて北陸高校を受けたの。北陸高校は私立の学校だから吹奏楽には予算があつて立派なバンドになつていて。これはいいなあ。それで受かつてしまったら「もう勉強はいわ」と更に勉強をせんようになつて（笑）北陸高校に行くことになつたの。

その頃から本当は音楽の専門の高校に行きたいなと思つていただけで、福井にはないし、と思つていたら、小さいころのヴァイオリンの先輩で国立（音楽大学）へ行つたお姉さんが「国立音楽大学へおいでや！」と言つてくれて。言われてから少しづつ勉強を始めて。あの頃のクラスはみんながそれぞれに応援をする体制があつて、良い雰囲気を作つてくれて、僕もレッスンに行く時には「頑張つて来いよ！うまくなつて来いよ！」と追い出されていったという感じがあつていい気分だったの。東京にユーフォニアムの先生がいらつしやつて、東京の中野の先生の家まで楽器を持って三年間通つたんです。それも学校の楽器を持って、夜行に乗つたり寝台列車に乗つたりして。

文：一人でですか？

篠：一人で。そうやつて一か月に一度行って、三年生になって大学を受けたんですけど、まあ、三年間で簡単に勉強もしたけど、ピアノも歌もやらなあかんわ、勉強もせなあかんわで、結局落ちたんです。それで福井の予備校へ行つたんですけど、福井の街があまりにも誘惑が多くて（笑）。遊びまわつてたね。その代わり、放課後になると北陸高校に教えに行つたりして、浪人生活を楽しんでいたので。でやつと次の年に受かつて、大学に入ることになつたつていうことですね。

大学に入つていううちに、東京に残らずに帰ろうというのが頭の中にあつたんで、卒業と同時に帰つてきたんです。で、始めたのが教職の試験。でもすつかり滑つてね。音楽大学なんて出たつてどこも取つてくれん。と、そう

いう時代やつたの。結局は何しようと思つていたら、その時に鯖江の消防音楽隊が先生を探している。それなら教えます、と。その一年後くらいに警察音楽隊も教えるようになって非常勤講師で、教えに行つていたんです。そしたら、鯖江中学校の音楽の先生が赤ちゃんを産むというので代わりに来てもらえんか、と行くことになつて、吹奏楽部の面倒を見ました。そしたら優勝してしまつてね。

文：おおすごい！

篠：そしたらこっちも調子に乗つちやつて。面白かつたんだらうね。自分も面白い子どもたちも喜ぶし。それで続けていたら、不思議なことには河和田中学校の音楽の先生が赤ちゃんを産むので来て頂戴と。そしてその期間が終わつたら今度は五中の音楽の先生が赤ちゃんを産むつて。

文：ええ〜！連続で。

篠：そう！で、その後に南条中学校の先生が赤ちゃんを産むつて。で、全部音楽の先生が赤ちゃんを産んで、その都度代わりに行つて合計四中学校行つたの。もちろん消防やら警察は同時にやつたんですけど。でも先生方からは楽しい音楽を教えてくれてよかつたです、と言われて。流行りの曲をピアノで弾いてみたり、子どももそれを喜んでくれて。

そうやつて四校回つていたら、福井高校に芸術コースつていう音楽とデザインの科ができて、その非常勤の先生として呼ばれたんです。消防やら警察やら教えながら福井高校の音楽コースの先生を十三〜四年やつていううちに、ハーモニーホール（ふくい）ができるぞ、と。事業の企画をやつたり、ステージのお手伝いをしたりつていう仕事はいいなあと言つていたら「面接を受けてみたら？」と言われて。非常勤で受かつて音楽堂が建つ一年前から行つて開館から十三〜四年いたのかな？

以前にも自分で福井県ユーフォニアムチューバ協会つていうのを作つたりしてね。できていく組織でなくて、一般で集まった人達をみるつていうのが僕は好きでね。好きな者を集めて何かやるつていうのが好きなんです。
文：今続けられている「スーザを吹こう」（い

まだて芸術館での事業）もそうですよね。

篠：福井県ユーフォニアムチューバ協会の時も結局は高望みする人と僕らみたいな吹ける者がやればいいじゃないかという人があつたので分かれてしまつたんですけど。僕は今でも吹くからにはちゃんと吹かなあかん、だけど「吹こう」という気持ちは大事にしたいので、いつでもおいで、それで吹けなかつたら辞めればいいし。努力しなくてみんなと一緒にやるというのはいかんし。というのが僕の最初からのスタンス。だからブレイクアンサンブルも昭和四十九年に立ち上げて最初はブラスバンドをやつてただで、福井県は吹奏楽のレベルが高いので子どもになめられてまうな（笑）と。それで吹奏楽はやめよう！と今のビッグバンド形式にして。やるんならこれからは懐かしのメロデーをやつてこうというんで十周年を先日迎えた「詩のない歌謡曲」につながるの。

文：読み通りですね。「詩（うた）のない歌謡曲」はいつも大盛況ですもんね。

篠：こつちも昔の歌謡曲、演歌、ニューミュージック、ポップス系の曲が一番いいぞ！とそれとつこうとやつてみて。おかげさまでファンも増えてきてこれも一つの手やなと。
文：それで今度はニュー・サウンズ・イン・ブラス。

篠：吹奏楽ではポピュラーとか映画音楽が吹くのも楽しいし、お客さんも喜ぶ。ニュー・サウンズ・イン・ブラスつていう楽譜が何十年前から出だして「これは僕らの物だ！」と。それでみんなが「やるせやるせ！」つて。いやみんな「やるせ！」つて勝手に言うけど大変なんやぞ（笑）つて。それをSNSにこんなやろうと思つて出したら奥田（健雄）さんやら植田（薫）さんやらが「やるせやるせ！」と。それなら二人で指揮をやつてもらつて三人でやるさ、と。
文：みんなつながつてる感じですね。いい感じに転がるというか。

篠：一生懸命やつていればだれか共鳴してくれるなというのがやつぱり虜になつてしまつたやね。

ニュー・サウンズ・イン・ブラス
公演詳細は裏面で！



吹奏楽でなつかしいポップスを

～New Sounds in BRASS 名曲コンサート～

日 時：2021年6月6日(日) 14時開演 会 場：越前市文化センター 大ホール
 入場料：一般 1,000円 友の会 800円 高校生以下 500円 (全席自由席)

県内演奏家をゲストに迎え、さまざまな音楽を吹奏楽に編曲した「ニュー・サウンズ・イン・ブラス」(New Sounds in BRASS)シリーズの名曲をお届けします。
 音楽監督：篠田 洋 指揮：奥田健雄・植田 薫
 ゲスト：白井淳夫(A.Sax) 武田幸夫(T.Sax) 友吉俊郎(A.Sax) 谷口浩和(Tp)
 林 邦宏(Tb) 南部匡恵(Cl)

4月初旬チケット発売予定!!

《出演者募集!!》

「吹奏楽でなつかしいポップスを～New Sounds in BRASS 名曲コンサート～」ではコンサートに出演して頂く吹奏楽経験者を募集しています。参加条件は個人楽器を持っていて、練習に積極的に参加ができる高校生以上の方です。参加ご希望の方は、越前市文化センターまでお問合せください。(応募締め切り：2021年4月30日申込書必着)

吹奏楽でなつかしいポップスを

～New Sounds in BRASS 名曲コンサート～

2021年6月6日(日) 14:00開演
 (13:00開場)

演奏出演者募集!

※詳しくは楽器の参加申込書をご覧ください。

申込締切：4月30日(金)



主な演奏曲

- 夏のテーマ
- オーメンズ・オブ・ラブ
- 懐いジャガーのテーマ
- オーブの冒険
- 道徳のテーマ
- A列車で行こう
- シング・シング・シング

※いずれの公演も前売りで完売の場合、当日券の販売はありません。ご了承ください。



シネマ歌舞伎

「三谷かぶき 月光露針路日本 風雲児たち」

(みたにかぶき つきあかりめざすふるさと ふうんじたち)

日 時：2021年5月22日(土) 14時～ (上映時間 138分)

会 場：越前市文化センター 大ホール

入場料：一般 2,200円 友の会 2,000円 (全席自由席)

漂流した伊勢の船乗りが辿り着いた先は...まさかのロシア!?
 人気歴史漫画「風雲児たち」をもとに三谷幸喜が描く冒険コメディを大きなスクリーンでたっぷりとお楽しみください。

出演：松本幸四郎・市川猿之助・片岡愛之助・八島智人・松本白鸚ほか

4月初旬チケット発売予定!!

シネマ歌舞伎

「人情噺 文七元結」(にんじょうばなし ぶんしちもつとい)

日 時：2021年5月22日(土) 19時～ (上映時間 87分)

会 場：越前市文化センター 大ホール 入場料：一般 2,200円 友の会 2,000円 (全席自由席)

笑い涙の人情喜劇の大傑作。山田洋次監督、中村勘三郎夢の顔合わせでとことん楽しんでいただきます!

出演：十八世中村勘三郎・中村扇雀・中村勘九郎・七世中村 芝翫ほか



新型コロナウイルス感染症拡大予防のために...

- ・チケットにご連絡先記入欄がございますので、来場される方のご連絡先の記入をお願いいたします。
- ・公演当日、発熱、咳、咽の痛みなどの症状があるお客様は入館をお控えください。・入場時に非接触式体温計にて検温いたします。
- ・館内ではマスクの常時着用をお願いいたします。・館内入り口設置の消毒用アルコールでの手指の消毒にご協力をお願いいたします。
- ・ひざ掛け等の貸し出しは行いません。必要な方は、ご自身でご用意ください。感染症拡大防止のため、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

越前市文化センタージュニア合唱団

このとり日記

12月26日に「クリスマスミニ発表会」がありました。

グループに分かれて歌の発表をしたり、先生の歌を聴いたりしました。いつものようにホールの発表はできませんでしたが、お父さんお母さんおばあちゃんにも今まで練習した歌をきいてもらうことができうれしかったです。

12月にはオペラシアターこんにゃく座「みんなで♪十二月の歌プロジェクト」への参加もしました。誕生月に分かれて歌を歌う様子を撮影しました。Youtubeで動画を見ることができます。みなさんぜひ見てみてください。

いっしょにうたおっさー♪



こちらのQRコードより「みんなで♪十二月の歌プロジェクト」動画を見ることができます。ぜひご覧ください。→



※越前市文化センター事業の案内は、ホームページに掲載しています。 <http://www.jigyodan-city-echizen.jp/bunka>

※Bunvoya!掲載の全ての講座・催しについては越前市文化センターまでお問合せください。

<発行・編集>2021年2月 越前市文化センター 越前市高瀬2丁目3-3 TEL:0778-23-5057 FAX:0778-21-1975

Bunvoya!は越前和紙を使用しています